

研修並びに行政視察報告

(会派 誠和クラブ)

<研修・視察目的>

・栃木県さくら市

地域資源循環型社会の構築に向け、地域資源であるバイオマスを活用した再生可能エネルギーの利用促進により、耕作放棄地（荒廃農地）対策の取り組みをしておられるさくら市を視察し、調査・研究し、安来市の地球温暖化対策の参考にするため。

・東京都西東京市

フレイル予防の先進的な取り組みをしておられる西東京市を視察し、調査・研究し、参考にするため。

<視察概要一覧>

研修・視察月日	研修・視察先	研修・視察施設	研修・視察内容
10月18日（火）	栃木県さくら市	さくら市役所ほか2施設	・バイオマス産業都市構想について
10月19日（水）	東京都西東京市	西東京市役所 田無庁舎	・フレイル予防事業について

<研修・視察概要報告>

1. 栃木県さくら市

- 説明者： さくら市 産業経済部農政課長ほか職員3名
(現地調査)
株式会社タカノ社長ほか2名
さくら市観光施設管理協会職員1名

●説明概要：

- ・「さくら市バイオマス産業都市構想について」

<概要>

1. 将来像

- ① 草本系バイオマスのエリアンサスを耕作放棄地（荒廃農地）に栽培し、耕作放棄地の対策やエネルギー供給の確率化
- ② 再生エネルギーを利用した自立・分散型エネルギーシステムの導入による災害に強いまちづくり
- ③ 資源の有効活用による地球温暖化防止と循環型社会構築

2. 事業化プロジェクト

- ① エリアンサス栽培プロジェクト
農業生産物資源のエリアンサスを耕作放棄地に栽培する
- ② エリアンサスペレット製造利活用プロジェクト
①のエリアンサスと剪定枝、林地残材を混合ペレット化し、市内公共施設へ燃料供給を行う
- ③ もみ殻利活用プロジェクト（未着手）
市内から発生するもみ殻を原料とした熱利用
- ④ エリアンサスを含むバイオガス化プロジェクト（未着手）
市内の食品系廃棄物や下水汚泥を活用したバイオガス発電と液肥の農業利用

3. 目標（10年後）

【バイオマス利用率】

- ・ 未利用バイオマス：93%

エリアンサス 90%、木質バイオマス 72%、農作物非食部 96%

- ・ 廃棄物系バイオマス：94%

家畜排せつ物 100%、生活排水汚泥 87%、食品廃棄物 40%、剪定枝 95%、廃食用油 40%

4. 地域波及効果

- ①経済波及効果 16.9 億円
- ②雇用の創出 15 人
- ③温室効果ガス（CO₂）排出削減量 971t-CO₂/年
- ④耕作放棄地（荒廃農地）の解消
- ⑤廃棄物の減量
- ⑥災害時の燃料供給

5. 実施体制

- ・ さくら市バイオマス産業都市推進協議会(仮称)を設置
- ・ さくら市が主体となって民間事業者・森林組合・関係機関等が連携して事業化プロジェクトを実施

<考 察>

・石倉 刻夷

構想着手から年数が短く、事業等の拡充はいまだ十分ではないが、民間事業者が施設整備する中で農研機構の研究員がサポートされ、課題とされる市としての方向性が定まることを期待する状況だ。

一方で耕作放棄地対策としてエリアンサスの栽培は一定の実績があり、ペレット化しての活用も市が温泉施設での利用があり、官民の共同施策の実効性が伺えた。



エリアンサスの写真

・三島 静夫

さくら市は交通体系の利便性の良さ、気候、産業構造等から「エネルギーの地産地消」「循環型社会の形成」「地域産業の創出」を目指し令和元年に「さくら市バイオマス産業都市構想」を策定し、計画期間を10年とし取り組みを行っておられる。このさくら市においてバイオマス事業として特色があるのが耕作放棄地を活用した農業生産物資源であるエリアンサスを活用した地域循環型社会の構築である。

このエリアンサスに木質系のバイオマスを混入しエリアンサスペレットを製造しバイオマスボイラー又は熱電併給設備での燃料とすることである。

エリアンサス栽培プロジェクトの年度別実施計画では3年以内においてエリアンサスの栽培試験を行い、5年以内に耕作放棄地の中でも比較的再生可能な農地を対象としたエリアンサスの栽培を行うとともにエネルギー需要施設の創出を行う、10年以内に長期的な視点で荒廃が深刻な農地の再生を目指して、エリアンサスの栽培面積の拡大を行うこととしている。

この度は計画から3年目を迎えられた現状を視察に伺った。

現在さくら市では8haの農地においてエリアンサスの栽培がおこなわれており

1haあたり20tのエリアンサスの収穫があり、それを加工してペレットで市内の温泉施設のボイラー燃料を賄う地域循環型のバイオマス燃料として利用しておられた。エリアンサス栽培に行政と共に係る民間事業者は産廃事業も行っており、ペレット製造の際の木質系バイオマスとして4市2町から剪定枝などを使用しているが、エリアンサスを用いたバイオマス燃料の取り組みにより耕作放棄地の再生のみならず林業振興にもつながる可能性を感じた。エリアンサスの初期育成は遅いが、定植翌年からは約10年にわたって継続収穫できるが、現状1haあたり100万円の苗代、収穫用の大型機械導入、耕作放棄地の再生開墾費用など多額の初期投資が必要となってくる。



また、安来市においてエリアンサスを活用したバイオマス事業を行うには気候に留意する必要もあるが、現在色々な機関での試験が行われており今後も注視していきたいが、基本的には安来市において有効な事業であると感じた。

・作野 幸憲

現在「さくら市バイオマス産業都市構想」の事業化プロジェクトで着手されているのは、農業生産物資源のエリアンサスを耕作放棄地に栽培する「エリアンサス栽培プロジェクト」と、このエリアンサスと剪定枝、林地残材を混合ペレット化し、

市内公共施設へ燃料供給を行う「エリアンサスペレット製造利活用プロジェクト」でした。この事業が始まったきっかけは、市内の民間業者が農研機構のHPからエリアンサスに興味を持ち、ペレット事業を計画していることを市に相談し、耕作放棄地の再生につながるのなら協力しようということで始まったプロジェクトでした。

さくら市の農地面積 5250ha のうち耕作放棄地は 17ha（B 分類）で、そのうち 8ha にエリアンサス栽培がおこなわれていて、耕作放棄対策としては十分な効果があり、また剪定枝や立地残材の収集についてもこの民間業者が一般廃棄物の許可を持っていることから収集がしやすい状況だということでした。また市民からの持ち込みも可能で資源の有効活用にもなっていました。そして何ととっても素晴らしいのは、民間事業者の計画を市が受け入れ、農研機構のサポートを受けながら、連携して取り組んでおられることでした。

安来市も地球温暖化対策を進める中、安来市バイオマスタウン構想を見つめ直し、新しい発想で施策を推進していただきたいと考えます。

2. 東京都西東京市

●説明者： 西東京市 健康福祉部高齢者支援課長ほか 職員 1 名

●説明概要：

・「フレイル予防事業について」

〈概要〉

西東京市では平成 29 年 4 月からフレイル予防事業に取り組んでおられます。事業の中核は、東京大学高齢社会総合研究機構が開発した、フレイル状態を確認する「フレイルチェック」です。これを元気高齢者から養成された「フレイルサポーター」と、フレイルサポーターを養成・指導する理学療法士、柔道整復師の「フレイルトレーナー」が共に実施しておられます。初回のフレイルチェックの後には、改善に向けた対策を学べる「フレイル予防ミニ講座」も開催され、またフレイルチェックを地域団体が主催するモデルづくりとして進めておられ、地域のつながりの強化、実施団体の活性化につなげ、地域づくりの起爆剤となっています。

〈考 察〉

・石倉 刻夷

平成 28 年 8 月に千葉県柏市のフレイル予防事業を視察され、東京大学高齢社会総合研究機構と連携協定締結により、フレイル予防がスタートし、約 5 年が経過していた。トレーナー、サポーターの養成普及啓発活動が精力的に展開されていた。

フレイルとは、健康な体と要介護状態の中間で、筋力や活力が衰えた段階にあるということです。健康チェックの入り口で市民参加の健康対策は、すぐに実践できる施策と感じました。

・三島 静夫

全国的に自治体を中心としフレイル予防事業が展開されている。この度視察に訪れた西東京市においては市と東京大学高齢社会総合研究機構が連携して行っておられた。

また、この事業の目的の一つに男性高齢者の社会事業参加の促進につなげるのがしっかりと明記されていることに大きな関心を抱いた。

安来市においても交流センターの事業において圧倒的に女性の参加者が多く、



男性をターゲットにした事業ではあまり参加者が少ない現状があり、健康寿命を延ばす事業による男性高齢者の心理的効果を活用した取り組みには大きく共感できるものであった。

前段で述べたが、この事業を共に進める東京大学高齢社会研究機構は西東京市のみならずいくつかの他自治体とも連携して活動することに

より、この事業効果のデータ収集を広く行うことでより効果の高い事業展開へとつなげることが可能となっていることもこの事業の特筆すべきところである。

この事業は最終的にはフレイル予防の最も効果のある事業となると考えられることから、安来市においても市内全域で同様の事業を行うことが望まれる。

・作野 幸憲

西東京市では、地域包括ケアシステムの重点施策として「フレイル予防と地域づくりの推進」を掲げておられ、フレイル予防事業を実施しておられた。

フレイル予防事業の柱は、東京大学高齢社会総合研究機構が開発したフレイル状態を確認する「フレイルチェック」。まずは自分のふくらはぎの一番太いところを指で囲んで筋肉量を把握する簡易型の「指輪っかテスト」から始まり、次は11項目の質問に答える「イレブンチェック」、そして機器を使用した実数値でチェックする「深堀りチェック」となっていました。このフレイルチェックを実施・運営は、一定の研修を受けた地元に住む65歳から87歳までの140人の方々と、地域の健康づくりの担い手として活動しておられることに驚きました。またフレイルチェックで収集したデータは東京大学で送られ、都内のほかの自治体分も含め、膨大なデータとして健康寿命の延伸などの研究に活かされていました。

このように西東京市のフレイル予防事業は、「元気シニアの活躍の場」になっており、「高齢者の生きがい」にもつながっていて、安来市でも是非このような施策を取り入れていただきたいと思いました。

以上